



シンポジウム「多摩川におけるカワラノギクの野生絶滅をめぐる」

多摩川におけるカワラノギクの野生個体群は2019年10月の洪水で流失し、種子の寿命の短いカワラノギクは多摩川では「野生絶滅」状態となりました。再生活動は1986年に立川市の三田鶴吉さんと鈴木功さんによって試みられて以来、10か所余りで行われてきました。残念なことに人の手による助けなしに生育しているカワラノギクは多摩川では見られなくなってしまいました。

かつて1960年代までカワラノギクは雲のように咲いていたそうです。その状況を取り戻すには長い時間をかけて多摩川の自然を再生するとともにカワラノギクの保全・再生活動を続ける必要があります。そこで、多くの方と現状に対する認識を共有して、若い方々にも関心を持っていただくことを目的に、下記のようなシンポジウムを企画しました。

日時；2023年2月25日（土）13時15分～15時45分

場所；国立商協ビルさくらホール（国立駅南口3分、国立市市東1丁目4-6国立商協ビル2階）

次第；司会 伊東静一（重点研究メンバー）

メッセージ 13:20～ 国土交通省京浜河川事務所、福生市役所、自然環境アカデミー（予定）

1. 13:30～ 都道府県版レッドリストと地域絶滅 内山香（東京都環境局自然環境部）
2. 13:45～ コシガヤホシクサの絶滅と野生復帰 田中法生（国立科学博物館）
3. 14:00～ 多摩川の堤防の改修と貴重種の保全 仙仁徑（多摩市文化振興財団（バルテノン多摩））
4. 14:20～ 多摩川におけるカワラノギクの野生絶滅
 - 1)カワラノギクプロジェクトによる調査 岡田久子（重点研究メンバー）
 - 2)種子を食べる昆虫ツツミノガ属の一種の絶滅 倉本宣（重点研究メンバー）
 - 3)生育地の環境を取り戻すために 知花武佳（重点研究メンバー／東京大学、オンライン参加）
5. 15:05- カワラバタ、ツマグロキチョウ、イカルチドリ、コアジサシなど、礫河原を主なハビタットとしている種の保全に取り組んでいる方からひと言
6. 15:25～ 総合討論礫河原保全・再生のブレークスルーをめざして

募集；会場60名、zoom 100名

主催；明治大学重点研究多摩川研究グループ（代表者 明治大学農学部教授倉本宣）
「生物多様性と防災を目的とする多摩川河川空間再編のための基礎的研究」

[申し込みはPeatix（カワラノギクで検索）またはeco@meiji.ac.jpまでお願いいたします。](#)

〒214-8571 川崎市多摩区東三田1-1-1 明治大学農学部倉本宣